

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 放射性廃棄物ワーキンググループ（第28回）-議事要旨

日時：平成28年9月1日（木曜日）8時00分～10時00分

場所：経済産業省別館9階944共用会議室

出席者

ワーキンググループ委員

高橋委員長、新野委員、崎田委員、寿楽委員、辰巳委員、朽山委員、伴委員、増田委員、山崎委員、吉田委員

経済産業省

村瀬電力・ガス事業部長、小澤資源エネルギー政策統括調整官、畠山電力・ガス事業部政策課長、小林放射性廃棄物対策課長、宮本放射性廃棄物対策技術室長

オブザーバー

近藤原子力発電環境整備機構理事長、宮澤原子力発電環境整備機構理事、廣江電気事業連合会副会長兼最終処分推進本部長

議題

全国的な対話活動の取組及び科学的有望地の提示に係る要件・基準について

議事要旨

事務局（小林放射性廃棄物対策課長）から、資料1について説明。

宮澤原子力発電環境整備機構理事から、資料2について説明。

朽山委員から、資料3-1について説明。

委員からの御意見

- 全国シンポジウム等に参加したが、全体として、処分の方法や安全性について、かなり理解は進んでいるが、エネルギーミックスや原子力の必要性などについてもっと議論が必要。

委員からの御意見

- 地層処分技術WGのとりまとめ案は、この2～3年に及ぶ議論の大きな成果だと考えている。
- 「科学的有望地」という言葉がミスリードさせている部分はある。日本でも処分地として適用可能な地域があることを広く知ってもらふスタートであることを強調していくことが必要。
- 原子力発電環境整備機構（NUMO）は、女性や若手を説明者に加えると良い。もっと色々な観点でコミュニケーションが進む。

委員からの御意見

- アンケート結果から、社会科学的観点を科学的有望地の提示から見送るという点については尊重できるが、シンポジウムには最終処分に関心が高い人が集まっているだろうから国民の縮図ではない。参加者の傾向から分析することが大事。
- 社会科学的観点について、大枠で共有していくタイミングがあるだろう。そのタイミングが難しい問題。

委員からの御意見

- 昨年、今年とシンポジウムに参加したが、昨年に比べ、今年は内容について質疑されており、議論が一步步進んでいる。また、全国広報とNUMOの対話型広報がバランスよく実施できたと思うので、続けていくことが大事。
- 科学的有望地は、まだ「候補地の地名が出るのか」「地名が出たら断れないのではないか」といった声もあるので、情報提供を丁寧に続けて欲しい。
- 科学的有望地提示後の活動について、今から伝えることが大事。関係学会や専門家、まちづくりの関係者とも連携しながらやっていけたらよい。
- 社会科学的観点については、まずは科学的な見地から科学的有望地を提示し、その後対話をしていくことを明確にすることが大事。

委員からの御意見

- 社会科学的観点については、今後具体的な地域が出てきたら、相対の相談の中で評価・考慮していくべき。他方、地域だけでなく社会全体でも議論していく必要もあるし、政府としてどのように議論していくか、今の段階から示していくことが必要。
- 社会がどのように受け止めるのか、先行調査も参考にすべき。
- 「科学的有望地」の語感、処分地の候補になると思われてしまう。提示後のプロセスを示すとともに、何を意味するのか説明を尽くすべき。
- シンポジウムでの貴重な意見は、理解活動の改善だけでなく、政策や事業にも生かすべき。
- 原子力委員会の評価も資するところはあるが、規制当局に今の段階でどのように関与してもらうのか考えることも必要。

委員からの御意見

- 地球科学的・技術的観点について、火山の近傍など一つでも該当する場合には「適性のある地域」にはならないという判断は良い。
- 社会科学的観点が科学的有望地の要件・基準から外れることに異論はない。しかし、自然環境への影響について、環境影響評価を制度化しておくべきではないか。
- 地層処分技術WGとりまとめ案について、空間・時間スケールへの言及があり、数万年のスケールがどう影響する可能性があるのかを考えるとあるが、もっと長い期間の影響を見ていかないといけないのではないか。地温にも言及しているが、最終処分場の作業環境の安全性を考えなければならないのではないか。TRU廃棄物についても地層処分していくことについてしっかり触れるべき。沿岸海底下について、調査されていない領域があることは重要なポイントであり、触れておくべき。

委員からの御意見

- 地層処分技術WGとりまとめ案作成に当たって、関係学会の意見照会やOECDレビュー等に丁寧に対応されており、信頼性が向上した。敬意を表したい。
- 科学的有望地の提示に当たって、「科学的有望地＝最終処分地」としてピンポイントで示されるのではないかなど、懸念がある。科学的有望地の意味について理解を求めていくことが必要。
- 社会科学的観点をマッピングの中に入れず、地球科学的・技術的観点に基づき提示していく方法が良い。地層処分の安全性についての理解が十分でないということだから、まずはそこにエネルギーを費やして、丁寧に段階的に理解を深めていくべき。マップ提示後、国民の中に多様な意見や知恵が出てくると思うので、そういったものを取り込みながら社会科学的観点を考えていくべき。

委員からの御意見

- 国は「引き続き前面に立って」対話活動を行っていくとあるが、地層処分を超えた全体の話については国の役割は大きい。国がやることを明確にしてほしい。
- 地球科学的観点というベーシックな重要性があって、その中で最終処分場の場所を決めていくための社会科学的観点は、比較にならないほど重要。これからきちんと議論していくことが必要。国民は行きつ戻りつ議論するものだという理解が必要。

委員からの御意見

- 科学的有望地の要件・基準に社会科学的観点を入れることは、時期尚早。ただし、いずれはやらないといけないので、それをどうしていくかが課題。
- 対話活動を重視していくことは大事。ただし、ボトムアップだけではなかなか解決しないものもあるので、色々なレベルの対話が必要。
- 地層処分技術WGのとりまとめは、国民との対話の一環としてやっている。国民に対し、日本の地質環境というものはこうなっていると示していくことは、対話活動の一環として非常に大事。

小林放射性廃棄物対策課長

- 科学的有望地を提示する意味合いについては、受け手がどのように認識するかが大事。意味合いが伝わるよう、丁寧に注意深く工夫していきたい。
- 地球科学的・技術的観定の共有をまず進めていくことについては、特段異論はなかったが、社会科学的観点について、国民的議論の土俵作りが大事だということはその通りだと思う。

委員からの御意見

- 中深度処分について、原子力規制委員会から規制の考え方が示された。高レベル放射性廃棄物に関する従来の説明との関係を国民はどう理解したらよいか、今後よく検討いただきたい。

以上

文責：事務局（資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課）

関連リンク

[総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 放射性廃棄物ワーキンググループの開催状況](#)

[動画1（YouTubeへリンクします。）](#) 

[動画2 \(YouTubeへリンクします。\)](#) 

お問合せ先

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課

最終更新日：2016年10月6日